



国際通貨基金

コミュニケー
ション局

プレスリリース No. 13/501
即時解禁
2013年12月13日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF、加盟国の強固かつ包摂的な成長の実現に向けた取り組み支援を重視

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は[半年毎に発表される IMF のワークプログラム](#)で、IMF は今後数カ月にわたり、加盟国が安定化から成長へ移行するための支援に焦点をあてると述べた。2013年11月25日に IMF 理事会が協議したこのプログラムは、これまでの世界経済の回復の特徴である低迷する成長と再発する市場不安という悪循環を断ち切るために必要な一連の行動を示した、2013年10月の[国際通貨金融委員会 \(IMFC\) のコミュニケ及びグローバル政策アジェンダ \(GPA\)](#) を基盤としている。

ラガルド氏はワークプログラムを発表する際に理事会に対し「世界経済の回復は一樣ではなく、期待したよりも抑制されている。安定化から、強固かつ持続可能かつ均衡ある包摂的な成長への移行は依然完了しておらず、より大胆な政策の実施が必要である。IMF は加盟国がこれを実現することができるよう、国別サーベイランス及びマルチラテラル・サーベイランスのなかで提供する評価と政策助言に加え、能力構築と金融支援の面でも支援していく」と述べた。

この目的を達成するため、**先進国・地域**については、IMF は成長志向の適切な財政健全化と、非伝統的な金融政策の最終的な正常化の順序及び影響など、回復を支える適切なマクロ経済政策ミックスの分析に焦点をあてる。また IMF は、加盟国による世界危機から派生した遺産的問題への対処を引き続き支援し、雇用創出を刺激するための改革を検証する。**新興市場国・地域**については、世界的な金融状況の正常化への移行の波及的効果に対するこれらの国や地域の頑健性の強化を支援するとともに、将来にわたって力強い成長をサポートするであろう改革の特定作業を継続すべく、潜在成長力の軌道を検討することになる。

さらに**低所得国**に対しては、ショックに対する政策バッファの強化に加え、とりわけ能力構築に焦点をあて包摂的成長を今後実現するための政策の推進を支援する。

また、移行期にあるアラブ諸国や、脆弱国、小国に対する支援については、これらの国に合わせ作成されたワークアジェンダを引き続き実施する。

ワークプログラムでは、加盟国の成長の押し上げに加え、次のような分野での取り組みを優先する。

- 脆弱性を軽減し、債務の持続可能性リスクに対応するために、財政政策の枠組みを強化する。
- 構造改革が成長と雇用創出をどのように支えることができるかを検証する。
- 政策の多国間的整合性や国境を越える波及効果の分析とサーベイランスでの様々な分析をより良く統合するなど、政策の波及効果や世界的な不均衡といった問題への協調行動と国際協力を促進する。
- 国際金融システムの改革アジェンダを効果的に実施するための支援、金融の安定性にかかるリスクの監視と特定、及び新興市場国・地域や途上国の金融部門の深化への取り組みを支援する。
- IMF 融資へのマイナス・イメージの軽減や資本フローの大きな変動、潜在的危機への対処という観点から IMF の融資の枠組みを強化する。